

令和7年度 行橋市教育施策に関する重点的な取組

- ・就学前教育と小学校教育の円滑な接続における重点取組
- ・学校教育の充実における重点取組
- ・学校、家庭、地域の連携・協働の推進における重点取組
- ・生涯学習の推進における重点取組
- ・文化芸術活動の充実における重点取組
- ・スポーツ活動の充実における重点取組

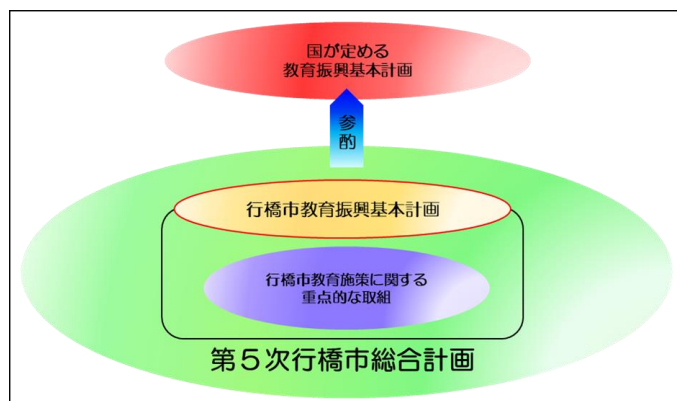
令和7年4月
行橋市教育委員会

はじめに

社会状況の変化や国の動向、これまでの本市の教育施策の取り組み状況と課題等を踏まえ、これからの時代における本市教育の基本理念や目標、目指す子ども像・市民像を定めるとともに、家庭教育（就学前教育）、学校教育及び社会教育が連携を深め、教育に関する施策を総合的・計画的に進めていくことを目的として、令和4年3月に「第2期 行橋市教育振興基本計画」（以下、「第2期計画」という。）を策定しました。第2期計画の実施期間は令和4年度から令和8年度までの5年間としています。令和6年度は、第2期計画の中間年となることから、これまでの教育施策の進捗状況や本市の教育を取り巻く状況の変化を踏まえ、令和7年度から令和8年度までの今後2年間の施策の展開及び重点取組・目標指標について、中間見直しを行いました。

第2期計画は、教育基本法第17条第2項に定める「教育振興基本計画」であり、国が定める教育振興基本計画を参酌した本市の実情に応じた教育の振興のための施策に関する基本的な計画で、本市の最上位計画である「第5次行橋市総合計画」を土台とした、教育分野全般に関する教育行政の中心的計画です。

この「行橋市教育施策に関する重点的な取組」は、第2期計画に掲げた施策ごとに重点的な取組として位置づけた取組の目標指標（KGI）を達成するための過程を評価する中間指標（KPI）を設定し、毎年度の達成状況を確認することにより、計画の進捗を管理していくものです。



【基本理念】

学びあい 支えあい つなぎあい

未来を拓く力をはぐくむ 人づくり

目指す子ども像

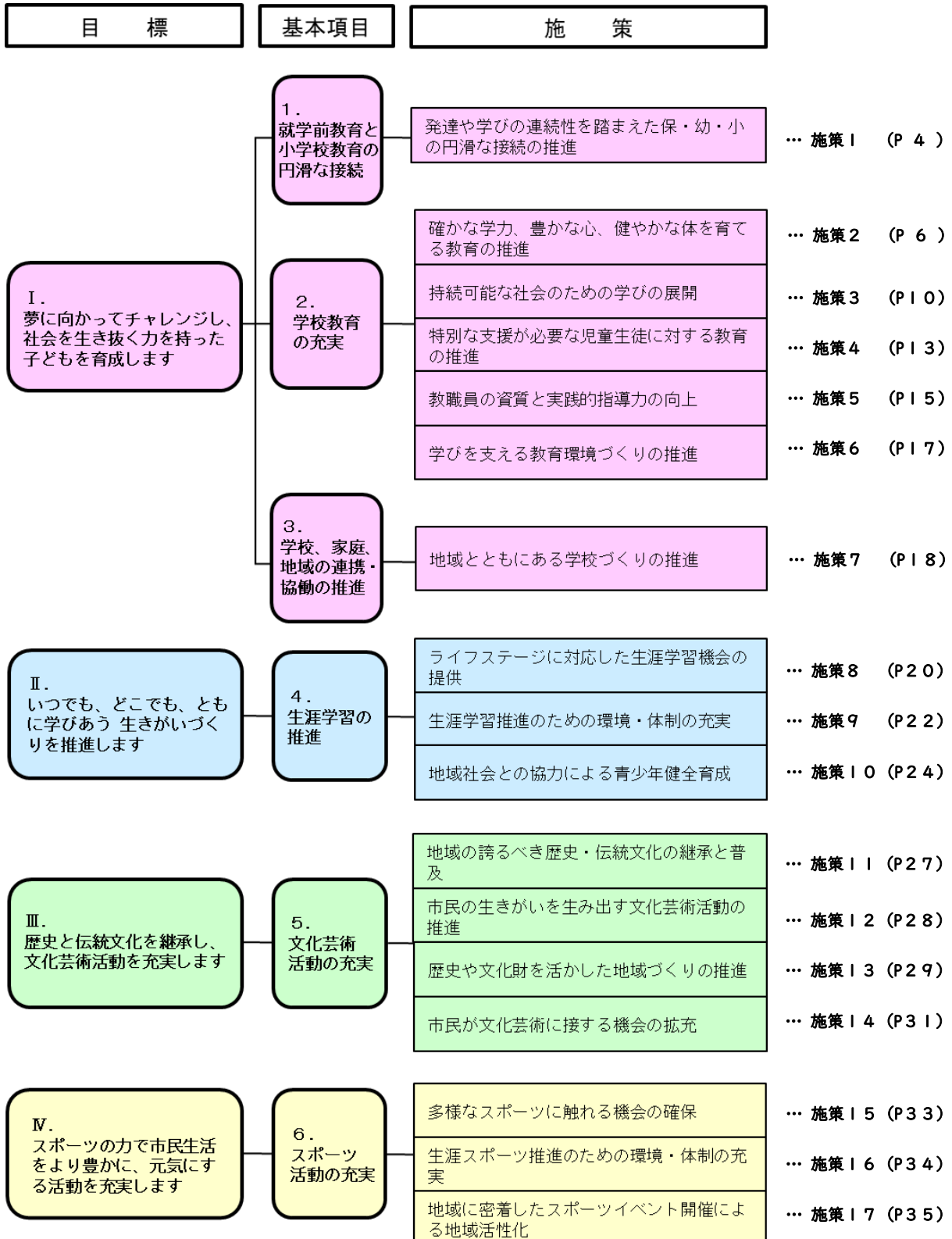
- グローバルな視点を持ち、夢に向かってチャレンジする子ども
- 思いやりの心を持ち、多様な価値観を認めあう子ども
- 「郷土ゆくはし」の良さを知り、誇れる子ども

目指す市民像

- いつまでも元気で、生き生きと活気あふれる人
- 多様性を尊重し、あらゆる世代を通じてともに学び支えあう人
- 地域の自然・歴史・文化に誇りをもち、「郷土ゆくはし」を愛する人

計画の体系

第2期計画の基本理念を実現するため「4つの目標、6つの基本項目、17の施策」をもとに整理、体系化しています。更に、それぞれの施策を構成する取組を整理し、その中で特に重点的な取組（重点取組）として位置付けた取組については、計画の実施期間である5年後（令和8年度）を目標年度とした目標値を定めています。



令和7年度行橋市教育施策に関する重点的な取組

次ページから、令和7年度行橋市の教育施策に関する重点的な取組について、下に示す構成で詳細に説明します。

目標

基本項目

【施策番号】 施 策

施策を構成する取組群

取組名の前の「◎」は、重点的な取組として目標指標を設定する取組です。

《重点取組(施策番号)-(枝番)：取組の名称》

担当課：〇〇課

【今年度の取組】

当該施策にかかる各課個別の重点取組について、今年度の取組内容を説明しています。

【目標指標】

当該重点取組にかかる目標について、KGI※¹及びKPI※²を用いて指標を設定し、令和2年度の実績及び令和3年度から計画実施期間である5年後（令和8年度）を目標年度と定め目標値を設定しています。

指標	R2年度実績	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度
		目 標	目 標	目 標	目 標	目 標
		実 績	実 績	実 績	実 績	実 績
K						
G						
I						
K						
P						
I						

※1「KGI」・・・「Key Goal Indicator」の略称。

達成すべき重要な目標を設定し、その目標の達成度合いを定量的に評価するための指標。

※2「KPI」・・・「Key Performance Indicator」の略称。

KPIはKGIを達成するための「過程」を評価するための中間指標となるもの。

I. 夢に向かってチャレンジし、社会を生き抜く力を持った子どもを育成します

1. 就学前教育と小学校教育の円滑な接続

【施策1】発達や学びの連続性を踏まえた保・幼・小の円滑な接続の推進

施策を構成する取組群

◆特別な支援が必要な子どもに対する支援の強化 ◆保・幼・小の連携強化
◎アプローチカリキュラム・スタートカリキュラムの整備

取組名の前の「◎」は、重点的な取組として目標指標を設定する取組です。

《重点取組1-1：アプローチカリキュラム・スタートカリキュラムの整備》 担当課：指導室 【今年度の取組】

- ・市内の全幼稚園・保育園が参加する研修会を定期的に行い、アプローチカリキュラム（年長の年間カリキュラム）・スタートカリキュラムの充実を図ります。
- ・学力向上・ICT活用推進研修会で、各小学校教務担当者に対して、小学校1年生スタートカリキュラムの作成・充実について協議を行い、新入学児童に対する支援体制を確立します。
- ・特に4月・5月における各小学校の実施状況について、研修会を通じて情報交流し、今後のよりよい保幼・小の連携を推進します。

【目標指標】

指標		R2年度実績	R4年度 目 標	R5年度 目 標	R6年度 目 標	R7年度 目 標	R8年度 目 標
			実 績	実 績	実 績	実 績	実 績
K G I	アプローチカリキュラムの作成・充実、または、年長のカリキュラムの充実を行った幼稚園・保育園・認定こども園の数、スタートカリキュラムの作成・充実を行った小学校の数（※1）	幼稚園・保育園の状況は不明 6 小学校	4 幼稚園 9 保育園 8 小学校	5 幼稚園 10 保育園 9 小学校	6 幼稚園 13 保育園 11 小学校	6 幼稚園 12 保育園 11 小学校	6 幼稚園 12 保育園 11 小学校
			4 幼稚園 9 保育園 8 小学校	4 幼稚園 9 保育園 11 小学校	6 幼稚園 12 保育園 11 小学校	-	-

指標		R2 年度実績	R4 年 度 目 標	R5 年 度 目 標	R6 年 度 目 標	R7 年 度 目 標	R8 年 度 目 標
			実 績	実 績	実 績	実 績	実 績
K P I	保・幼・小連携研 修会の開催数（※ 2）	2 回	10 回	10 回	10 回	2 回	2 回
			10 回	10 回	2 回	-	-
	特別教育支援ア ドバイザー派遣 数（※3）	市内、苅田 町幼・保 19 園 計 38 回 前期・後期	市内、苅田 町幼・保 19 園 計 38 回 前期・後期	市内、苅田 町幼・保 19 園 計 38 回 前期・後期	市内、苅田 町幼・保 19 園 計 38 回 前期・後期	幼・保 18 園 計 36 回 前期・後期	幼・保 18 園 計 36 回 前期・後期
			市内、苅田 町幼・保 19 園 計 38 回 前期・後期	市内、苅田 町幼・保 19 園 計 38 回 前期・後期	幼・保 18 園 計 36 回 前期・後期	-	-
	小学校就学前相 談会開催数（※ 4）	年 1 回 開 催 (42 名参加)	年 1 回 開 催 (40 名程度)	年 1 回 開 催 (40 名程度)	年 1 回 開 催 (40 名程度)	年 1 回 開 催 (40 名程度)	年 1 回 開 催 (40 名程度)
			年 1 回 開 催	年 1 回 開 催	年 1 回 開 催	-	-

※1：R7 年 4 月第 2 期計画改訂時に K G I を見直し。

※2：R7 年度から目標値を見直し。

※3：R7 年度から目標値を見直し。

※4：R7 年度から重点取組 4－1 の指標へ。

2. 学校教育の充実

【施策2】確かな学力、豊かな心、健やかな体を育てる教育の推進

施策を構成する取組群

◎確かな学力の定着

◆学力向上のためのICT活用授業づくりの支援

◆主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業づくり

◆体力向上のための指導方法の支援

◆小中連携教育の充実・小中一貫教育の推進

◆少人数指導などのきめ細かな指導の推進

◆道徳教育の充実

◆郷土を愛する心の育成

◆キャリア教育の充実

◆学校図書室活用の充実と読書活動の推進

◆保健・安全教育の充実、食育の推進

◎食を通じて子どもを育てる学校給食事業

◎アレルギー対応学校給食事業の推進

◆人権教育の推進

◆組織的な教育相談体制づくり

取組名の前の「◎」は、重点的な取組として目標指標を設定する取組です。

《重点取組2-1：確かな学力の定着》

担当課：指導室

【今年度の取組】

- ・全国学力・学習状況調査の実績値の分析をすすめ、課題のある学習領域について、学力向上・ICT活用推進研修会で、各小・中学校教務担当者に対して共通理解を図ります。
- ・福岡県と連携し、学力アップ事業を行います。
- ・県の最新の情報を各小・中学校における授業の改善に活かし、学力向上に取り組めます。

【目標指標】

指標		R2 年度実績	R 4 年 度	R 5 年 度	R 6 年 度	R 7 年 度	R 8 年 度
			目 標	目 標	目 標	目 標	目 標
			実 績	実 績	実 績	実 績	実 績
K G I	全国学力・学習状況調査の各小・中学校の平均正答率	臨時休校による実施中止	小・国語 66%	小・国語 67%	小・国語 68%	小・国語 69%	小・国語 70%
			中・国語 66%	中・国語 67%	中・国語 68%	中・国語 69%	中・国語 70%
			算数 66%	算数 67%	算数 68%	算数 69%	算数 70%
			数学 66%	数学 67%	数学 68%	数学 69%	数学 70%
			小・国語 65%	小・国語 66%	小・国語 65%		
			中・国語 69%	中・国語 65%	中・国語 55%	-	-
			算数 64%	算数 60%	算数 59%		
			数学 48%	数学 45%	数学 48%		

指標		R2 年度実績	R 4 年 度 目 標	R 5 年 度 目 標	R 6 年 度 目 標	R 7 年 度 目 標	R 8 年 度 目 標
			実 績	実 績	実 績	実 績	実 績
K P I	小・国語 前年県学調正答率	57%	58%	59%	60%	61%	62%
			55%	42%	60%	-	-
	算数 前年県学調正答率	59%	60%	61%	62%	63%	64%
			59%	42%	56%	-	-
	中・国語 前年県学調正答率	55%	56%	57%	58%	59%	60%
			55%	51%	59%	-	-
	数学 前年県学調正答率	52%	53%	54%	55%	56%	57%
			49%	47%	58%	-	-

指標		R2 年度実績	R 4 年 度 目 標	R 5 年 度 目 標	R 6 年 度 目 標	R 7 年 度 目 標	R 8 年 度 目 標
			実 績	実 績	実 績	実 績	実 績
K G I	全国学力・学習状況調査の各小・中学校の標準化得点（全国平均を100とした場合の割合）（※）	臨時休校による実施中止	-	-	-	小・国語 100 小・算数 100 中・国語 100 中・数学 100	小・国語 100 小・算数 100 中・国語 100 中・数学 100
			小・国語 99.1 小・算数 101.3 中・国語 100 中・数学 93.4	小・国語 98.2 小・算数 96.0 中・国語 93.1 中・数学 88.2	小・国語 96.0 小・算数 93.1 中・国語 94.7 中・数学 91.4	-	-
K P I	自分の考えをまとめる活動を実施していると感じる児童生徒の割合	-	-	-	-	小 80% 中 75%	小 80% 中 75%
			小 64% 中 64%	小 75% 中 66%	小 75% 中 65%		
	話し合う活動を実施していると感じる児童生徒の割合	-	-	-	-	小 85% 中 85%	小 85% 中 85%
			小 76% 中 80%	小 81% 中 78%	小 82% 中 82%		

指標	R2年度実績	R4年度 目 標	R5年度 目 標	R6年度 目 標	R7年度 目 標	R8年度 目 標
		実 績	実 績	実 績	実 績	実 績
分かるまで教えてく れていると感じる児 童生徒の割合	—	—	—	—	小 90% 中 90%	小 90% 中 90%
		—	小 96% 中 88%	小 89% 中 86%		

※R7年4月第2期計画改訂時にKGI及びKPIを見直し。

《重点取組2-2：食を通じて子どもを育てる学校給食事業》 担当課：防災食育センター

【今年度の取組】

- ・市内17校の児童生徒に対し、衛生管理を徹底した安全安心な学校給食を提供することで、子どもたちの健全な食生活と豊かな人間形成を図ります。
- ・食事時の誤嚥事故を防ぐため、食材の選定・調理方法を検討し、学校で誤嚥が生じた場合の初期対応の周知等を行います。
- ・専門性を持った栄養教諭が、各学校の学級担任と連携しながら「食に関する授業」を実施することにより、食への関心を高める食育を推進します。特に、食品の種類やそれぞれの食品の働きについての理解を深めるとともに、食べない選択を認めたうえで、食べることの大切さを伝えます。
- ・給食管理の効率化及び食に関する指導の推進のため、栄養教諭等のICT活用力の向上を図り、子どもたちの食への関心を高めるICTを活用した食育を推進します。

【目標指標】

指標	R2年度実績	R4年度 目 標	R5年度 目 標	R6年度 目 標	R7年度 目 標	R8年度 目 標
		実 績	実 績	実 績	実 績	実 績
K G I 児童アンケート における取り組 んだ学習の満足 度	—	80%	80%	80%	80%	80%
		84%	89%	85%	—	—
K P I 食育授業対象児 童数	約 640 人	約 630 人 (全クラス)	全クラス (23クラス)	全クラス (23クラス)	全クラス	全クラス
		全クラス (24クラス)	全クラス (23クラス)	全クラス (23クラス)	—	—

《重点取組2-3：アレルギー対応学校給食事業の推進》 担当課：防災食育センター

【今年度の取組】

- ・「学校のアレルギー疾患に対する取り組みガイドライン」等に基づいた対応による、各工程での適時チェックを推進します。
- ・エピペン®実習研修会を開催し、学校での「アナフィラキシー」症状対応が可能になる

よう取組みを推進します。

- ・食物アレルギー対応の「原因食物の多様化」、「対象者の増加」を踏まえ、食物アレルギー対応検討委員会において、食物アレルギー対応について協議・検討を行います。

【目標指標】

指標		R2年度実績	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度
			目標	目標	目標	目標	目標
			実績	実績	実績	実績	実績
K G I	誤配・誤食による 事故件数	0件	0件	0件	0件	0件	0件
			0件	0件	0件	-	-
K P I	新規採用教職員 等へのエピペン® 実習研修会参加 率	研修会中止 に伴い、エ ピペン®サ イト案内及 び資料の提 供	100%	100%	100%	100%	100%
			100%	95%	96% (※)	-	-

※R7年度の研修会参加者には、R6年度の受講予定者で受講できなかった職員等が含まれます。

【施策3】持続可能な社会のための学びの展開

施策を構成する取組群

- ◎グローバル教育の充実
- ◎小中学校におけるICT教育の推進

取組名の前の「◎」は、重点的な取組として目標指標を設定する取組です。

《重点取組3-1：グローバル教育の充実》

担当課：教育総務課

【今年度の取組】

- ・ALT（外国語指導助手）を小・中学校に派遣し、外国語科（活動）の授業支援や英語教育の充実に努めます。また、日常的に英語に触れる機会を設定することで、異文化理解・国際理解を進めます。
- ・子どもたちが楽しく英語に触れ、学ぶ機会を提供するため、小学生夏休み英語教室、中学生夏休み英語体験学習を実施します。
- ・中学校海外体験学習事業として、本年度はグレイス・チャーチ・スクールへ本市の生徒を派遣し、グレイス・チャーチ・スクールとの交流を深めながら、子どもたちに国際交流の機会を提供します。
- ・外国語教育の先進自治体の情報を収集するとともに、英語科の教員と意見交換を継続的に行い、英語教育の充実に向けた方策を検討します。

【目標指標】

指標		R2 年度実績	R 4 年 度	R 5 年 度	R 6 年 度	R 7 年 度	R 8 年 度
			目 標	目 標	目 標	目 標	目 標
			実 績	実 績	実 績	実 績	実 績
K G I	英検級レベルが3級以上の中学校3学年生徒の割合(※1)	53.2%	60%	62%	65%	45%	50%
			42%	36%	33%	-	-
K P I	小学生夏休み英語教室に参加した児童数	中止	40 人	50 人	55 人	60 人	65 人
			15 人	37 人	64 人	-	-
	中学生夏休み英語体験学習に参加した生徒数(※2)	-	-	-	-	35 人	40 人
			-	-	15 人	-	-
	中学生夏休み英語宿泊体験に参加した生徒数(※3)	中止	15 人	20 人	25 人	30 人	35 人
			3 人	中止	未実施	-	-

指標		R2 年度実績	R 4 年 度 目 標	R 5 年 度 目 標	R 6 年 度 目 標	R 7 年 度 目 標	R 8 年 度 目 標
			実 績	実 績	実 績	実 績	実 績
外国語の授業・活動 が楽しいと感じて いる児童生徒の割 合	-	-	60%	83%	85%	87%	90%
			81%	82%	76%	-	-

※ 1：R7 年 4 月第 2 期計画改訂時に K G I の目標値を見直し。

※ 2：R7 年度から K P I に追加。

※ 3：R7 年度以降は K P I から削除。

《重点取組 3-2：小・中学校における ICT 教育の推進》

担当課：教育総務課

【今年度の取組】

- ・これからの社会を生きていくうえで必要となる情報活用能力を育成するとともに、「主体的、対話的で深い学び」の視点に立ち、I C T 機器の効果的な利活用を含めた授業改善を推進します。
- ・学校や教員のニーズに応じた研修を企画するとともに、研修をより多くの学校、教員が参加できるように、実施時期や実施時間、柔軟な対応に努め、積極的な受講を勧奨します。
- ・これまでの学校での取り組みを評価し、さらに、学校全体の情報化を総合的に進めていくため、全小中学校において、「学校情報化優良校」の認定を目指します。
- ・令和 5 年度から令和 7 年度にかけて、タブレット端末等の I C T 機器の大規模な更新、学校ネットワークの再構築、印刷環境の整備を行うことを予定しており、学校の意向や現場の状況を確認しながら、働きやすい学校づくりに努めます。

【目標指標】

指標		R2 年度実績	R 4 年 度 目 標	R 5 年 度 目 標	R 6 年 度 目 標	R 7 年 度 目 標	R 8 年 度 目 標
			実 績	実 績	実 績	実 績	実 績
K G I	ICT を活用した授業が楽しいと感じている児童生徒の割合	-	80%	85%	90%	95%	95%
			92%	92%	92%	-	-
K P I	教科等の指導に日常的に ICT を活用している教員の割合	-	90%	90%	95%	95%	100%
			91%	89%	88%	-	-
	ICT の活用が学力向上に効果がある	-	85%	90%	95%	100%	100%

指標	R2 年度実績	R 4 年 度 目 標	R 5 年 度 目 標	R 6 年 度 目 標	R 7 年 度 目 標	R 8 年 度 目 標
		実 績	実 績	実 績	実 績	実 績
と実感している教員の割合		87%	93%	88%	-	-
授業で ICT を活用することにより、学習の理解度が上がったと感じている児童生徒の割合	-	95%	97%	99%	100%	100%
		89%	89%	89%	-	-

【施策４】特別な支援が必要な児童生徒に対する教育の推進

施策を構成する取組群

- ◆インクルーシブ教育の推進と充実
- ◆特別支援教育を推進する教職員等の実践的指導力の向上
- ◎特別な支援が必要な児童生徒に対する支援の強化

取組名の前の「◎」は、重点的な取組として目標指標を設定する取組です。

《重点取組４－１：特別な支援が必要な児童生徒に対する支援の強化》 担当課：指導室 【今年度の取組】

- ・８月に新入学予定の児童に対する就学相談会を実施し、保護者に対して、今後の学習支援・生活支援に必要な助言を行います。
- ・教育支援委員会について、学校や保護者に対してより丁寧な説明を行うとともに、関係機関との連携を密にしながら、保護者の満足度の向上を目指します。
- ・増加傾向にある特別支援アドバイザーの派遣について、アドバイザーの増員検討と併せて各小・中学校に対して県の事業の周知を図り、支援につながる体制づくりを推進します。

指標		R2年度実績	R4年度 目 標	R5年度 目 標	R6年度 目 標	R7年度 目 標	R8年度 目 標
			実 績	実 績	実 績	実 績	実 績
K G I	子どもの実態に応じた教育を受けるための特別支援学級入級・卒級に係る支援への満足度（※１）	80%	85%	90%	90%	90%	90%
			85%	91%	90%	-	-
K P I	教育支援委員会の開催回数	定例１回 臨時１４回 (71名)	定例１回 臨時約１４回 (70名程度)	定例１回 臨時約１４回 (70名程度)	定例６回 (100名程度)	定例６回 (100名程度)	定例６回 (100名程度)
			定例１回 臨時約１７回 (100名)	定例１回 臨時約１３回 (125名)	定例６回 (110名)	-	-
	特別支援教育アドバイザーの派遣回数	市内１７校 年間１０１回 (R3.2月時点)	市内１７校 年間１００回程度	市内１７校 年間１００回程度	市内１７校 年間１００回程度	市内１７校 年間１００回程度	市内１７校 年間１００回程度
			市内１７校 年間 97 回	市内 17 校 年間 140 回	市内 17 校 年間 210 回	-	-

指標	R2 年度実績	R 4 年 度	R 5 年 度	R 6 年 度	R 7 年 度	R 8 年 度
		目 標	目 標	目 標	目 標	目 標
		実 績	実 績	実 績	実 績	実 績
小学校就学前相 談会開催数（※ 2）	年 1 回 開 催 (42 名参加)	年 1 回 開 催 (40 名程度)	年 1 回 開 催 (40 名程度)	年 1 回 開 催 (40 名程度)	年 1 回 開 催 (40 名程度)	年 1 回 開 催 (40 名程度)
		年 1 回 開 催	年 1 回 開 催	年 1 回 開 催	-	-

※ 1：R7 年 4 月第 2 期計画改訂時に K G I を修正。

※ 2：R7 年度から K P I に追加（重点取組 1－1 より）。

【施策5】教職員の資質と実践的指導力の向上

施策を構成する取組群

- ◆学力向上のためのICT活用授業づくりの支援（再掲）
- ◆調査研究や授業改善を推進する体制づくり
- ◎教育研究・教職員研修の充実
- ◆教職員の服務規程の適正化
- ◆超過勤務の削減に向けた取組みの推進

取組名の前の「◎」は、重点的な取組として目標指標を設定する取組です。

《重点取組5-1：教育研究・教職員研修の充実》

担当課：指導室

【今年度の取組】

- ・教務担当者、新規採用教員、生徒指導担当者、特別支援教育担当者、学校図書担当者等に対して研修会を実施し、各専門領域に必要な情報を提供し、教諭としての資質の向上を図ります。
- ・不祥事防止対策に関係する研修を実施し、保護者から信頼される学校運営を目指します。
- ・研修内容については、学力向上や不登校、若年教員研修等、学校や教職員の実態にあった内容を検討するとともに、外部講師の活用も積極的に進めます。

【目標指標】

指標		R2年度実績	R4年度 目 標	R5年度 目 標	R6年度 目 標	R7年度 目 標	R8年度 目 標
			実 績	実 績	実 績	実 績	実 績
K G I	保護者アンケートにおける教師の信頼度	満足度 70%	満足度 70%	満足度 75%	満足度 75%	満足度 80%	満足度 80%
			満足度 71%	満足度 81%	満足度 88%	-	-
K P I	新規採用職員研修会	年 2 回 開 催 (30名参加)	年 2 回 開 催 (30名程度)	年 2 回 開 催 (30名程度)	年 2 回 開 催 (30名程度)	年 2 回 開 催 (30名程度)	年 2 回 開 催 (30名程度)
			年 2 回 開 催 (36名)	年 2 回 開 催 (47名)	年 2 回 開 催 (40名)	-	-
	生徒指導主事研修会	年 2 回 開 催 (30名参加)	年 2 回 開 催 (30名程度)	年 2 回 開 催 (30名程度)	年 2 回 開 催 (30名程度)	年 2 回 開 催 (30名程度)	年 2 回 開 催 (30名程度)
			年 2 回 開 催 (34名)	年 2 回 開 催 (34名)	年 1 回 開 催 (17名)	-	-

K P I	指標	R2 年度実績	R 4 年 度	R 5 年 度	R 6 年 度	R 7 年 度	R 8 年 度
			目 標	目 標	目 標	目 標	目 標
			実 績	実 績	実 績	実 績	実 績
	外国語授業づくり研修会	年 2 回 開 催 (50 名参加)	年 2 回 開 催 (50 名程度)	年 2 回 開 催 (50 名程度)	年 1 回 開 催 (20 名程度)	年 1 回 開 催 (20 名程度)	年 1 回 開 催 (20 名程度)
			年 2 回 開 催 (48 名)	年 1 回 開 催 (17 名)	年 1 回 開 催 (20 名)	-	-
	道徳教育推進教師研修会	年 1 回 開 催 (20 名参加)	年 1 回 開 催 (20 名程度)	年 1 回 開 催 (20 名程度)	年 1 回 開 催 (20 名程度)	年 1 回 開 催 (20 名程度)	年 1 回 開 催 (20 名程度)
			年 1 回 開 催 (22 名)	年 1 回 開 催 (17 名)	年 1 回 開 催 (20 名)	-	-
	子ども読書に関する研修会	年 1 回 開 催 (30 名参加)	年 1 回 開 催 (30 名程度)	年 1 回 開 催 (30 名程度)	年 1 回 開 催 (30 名程度)	年 1 回 開 催 (30 名程度)	年 1 回 開 催 (30 名程度)
			年 1 回 開 催 (28 名)	年 1 回 開 催 (26 名)	年 1 回 開 催 (17 名)	-	-
	学力向上・ I C T 研修の回数	7 回 120 名参加	10 回以上 170 名参加	12 回以上 200 名参加	12 回以上 200 名参加	12 回以上 200 名参加	12 回以上 200 名参加
			10 回 180 名参加	12 回 226 名参加	29 回 521 名参加	-	-
	若年教師研修の回数 (各校に指導主事派遣)	55 回	60 回	60 回	60 回	60 回	60 回
			60 回	65 回	47 回	-	-
	新任特別支援研修の回数	15 回	20 回	20 回	20 回	20 回	20 回
			20 回	20 回	15 回	-	-
	不祥事防止研修の回数	2 回	2 回	2 回	2 回	2 回	2 回
			3 回	3 回	7 回	-	-

【施策6】学びを支える教育環境づくりの推進

施策を構成する取組群

◎安全かつ快適な教育環境づくり

◆教育ニーズの多様化に対応した学習スペースの充実

◆ICT環境の維持管理・運用

◆教育環境の充実に向けた活力ある学校づくり

取組名の前の「◎」は、重点的な取組として目標指標を設定する取組です。

《重点取組6-1：安全かつ快適な教育環境づくり》

担当課：学校管理課

【今年度の取組】

- ・学校施設の改修工事については、「行橋市公立学校施設整備総合計画」や、令和3年3月に策定された「行橋市教育施設長寿命化計画」に基づき、計画的に進めていきます。
- ・学校施設の老朽化、機能低下に際し、児童生徒が安全かつ安心して学校生活を過ごせるよう、また致命的な損傷を防ぐために教育現場の意見を尊重した修繕を実施します。
- ・前年度の満足度を維持できるよう、学校現場の現状把握に努めます。
- ・小中学校の体育館は児童生徒の学習の場であるとともに、災害時に避難所としても活用されます。昨今の酷暑による授業への影響や災害の頻発化に対応するため、文部科学省の方針を踏まえ、全小中学校体育館への空調設備導入に努めます。
- ・令和5年11月に起こった事故を受け、再発防止に向けた取組を実施します。
 1. 学校管理課による全校の安全点検実施
 2. 安全点検後に発覚した要修繕箇所を復旧するための予算確保
 3. 専門家による安全研修の実施

【目標指標】

指標		R2年度実績	R4年度 目 標	R5年度 目 標	R6年度 目 標	R7年度 目 標	R8年度 目 標
			実 績	実 績	実 績	実 績	実 績
K G I	児童生徒へのアンケートにおける学校施設に対する満足度	-	68%	71%	74%	77%	80%
			90%	90%	88%	-	-
K P I	小中学校施設修繕料執行率	100% (小学校186件、 中学校107件)	100%	100%	100%	100%	100%
			108%	150%	105%	-	-

3. 学校、家庭、地域の連携・協働の推進

【施策7】地域とともにある学校づくりの推進

施策を構成する取組群

- | | |
|-------------|------------------|
| ◎学校運営協議会の推進 | ◆地域学校協働活動の推進（再掲） |
| ◆家庭の教育力向上 | ◆郷土を愛する心の育成（再掲） |

取組名の前の「◎」は、重点的な取組として目標指標を設定する取組です。

《重点取組7-1：学校運営協議会の推進》

担当課：教育総務課

【今年度の取組】

- ・学校・家庭・地域が連携・協働し、子どもを育成するために、学校運営協議会の発展・充実に支援し、「地域とともにある学校づくり」を推進します。
- ・各協議会での協議や活動が充実したものとなるよう、教育総務課と生涯学習課とが連携して、地域コーディネーターの配置・育成を行う等、伴走支援体制を強化します。
- ・学校運営協議会向けの研修会を実施し、学校運営協議会間での活動内容の共有や意見交換を推奨します。
- ・学校運営協議会がより活動しやすくなるよう、学校運営協議会やコミュニティ・スクールの制度や活動について、ホームページ・保護者連絡アプリを効果的に活用し、市民や保護者への周知を図ります。

【目標指標】

指標	R2年度実績	R4年度 目 標	R5年度 目 標	R6年度 目 標	R7年度 目 標	R8年度 目 標
		実 績	実 績	実 績	実 績	実 績
K G I 学校運営協議会 による連携・協働 活動への参加延 べ人数	120人 (1協議会)	1,400人 (17協議会)	1,700人 (17協議会)	2,000人 (17協議会)	2,100人 (17協議会)	2,200人 (17協議会)
		1,159人 (17協議会)	2,301人	2,685人	-	-
K P I 地域学校協働活 動の数（※）	(2回)	(34回)	40回	40回	40回	40回
		22回	61回	70回	-	-
	-	80%	51%	54%	57%	60%
		42%	45%	49%	-	-

※R5年度から指標を変更し、R6年度はその表記を修正した。

R5年度は“学校運営協議会活動のうち連携活動数”としていたものを、制度上、正確な

表現に改めた。

R4 年度の指標は“学校運営協議会活動（連携活動数含む）数”。なお、R4 実績は変更後の指標の数値を記載。

《重点取組 7-2：地域学校協働活動の推進》

担当課：生涯学習課

※再掲（P19，20 重点取組 9-1 参照）

Ⅱ. いつでも、どこでも、ともに学びあう 生きがいを推進します

4. 生涯学習の推進

【施策8】 ライフステージに対応した生涯学習機会の提供

施策を構成する取組群

- ◆生涯学習講座・学級の充実
- ◎読書活動の推進
- ◆図書館等複合施設（リブリオ行橋）の学校図書館との連携
- ◆地域情報発信の推進

取組名の前の「◎」は、重点的な取組として目標指標を設定する取組です。

＜重点取組8-1：読書活動の推進＞

担当課：生涯学習課

【今年度の取組】

- ・リブリオ行橋（図書館等複合施設）を活用し、子どもから大人・高齢者まで多様な人が集い、学び憩える交流空間づくりを行うことで知の拠点施設として市民の教育、学術及び文化の振興を図ります。
- ・ブックスタート事業を4ヶ月児健診時に実施し、読書との出会いづくりを進めます。
- ・小学生読書リーダー養成講座を実施することで、読書リーダーを育成し、子どもたちの主体的な読書活動の推進を図ります。

【目標指標】

指標		R2年度実績	R4年度 目 標	R5年度 目 標	R6年度 目 標	R7年度 目 標	R8年度 目 標
			実 績	実 績	実 績	実 績	実 績
K G I	児童・生徒・学生 （10代以下）の図 書貸出者率（※）	-	23.0%	23.5%	24.0%	24.5%	25.0%
			20%	19.4%	18.9%	-	-
	小学生の不読率 （※）	-	-	-	-	10.5%	10.0%
			-	-	11.3%	-	-
K P I	リブリオ行橋来 館者数	190,406人	200,000人	231,000人	245,000人	250,000人	250,000人
			228,066人	241,894人	246,088人	-	-

K P I	指標	R2年度実績	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度
			目標	目標	目標	目標	目標
			実績	実績	実績	実績	実績
	ブックスタート 時の絵本配布率	100%	100%	100%	100%	100%	100%
			100%	100%	100%	-	-
	読書リーダー養成講座参加率	— (コロナ禍により中止)	100%	100%	100%	100%	100%
			86%	86%	91%	-	-

※R7年4月第2期計画改訂時にKGIを見直し。不読率とは「直近1カ月に本を読んでいるいない児童の割合」。

【施策9】生涯学習推進のための環境・体制の充実

施策を構成する取組群

- ◆生涯ボランティア登録派遣事業の運営
◆人権講座の開催による市民人権意識の高揚
◆男女共同参画学習の推進
◎学校運営協議会の推進（再掲） ◎地域学校協働活動の推進
◆校区公民館及び地域交流センターの管理運営・利用促進
◆学習等供用施設の管理運営 ◆宿泊型研修施設の管理運営・利用促進
◆図書館等複合施設（リブリオ行橋）の管理運営・利用促進

取組名の前の「◎」は、重点的な取組として目標指標を設定する取組です。

《重点取組 9-1：地域学校協働活動の推進》

担当課：生涯学習課

【今年度の取組】

- ・地域全体で子どもたちの学びや成長を支えていくため、地域住民、民間企業、団体・機関等、幅広い地域住民等が学校運営協議会と一体的に連携・協働していくことを推進していきます。

【目標指標】

指標		R2 年度実績	R 4 年 度	R 5 年 度	R 6 年 度	R 7 年 度	R 8 年 度
			目 標	目 標	目 標	目 標	目 標
			実 績	実 績	実 績	実 績	実 績
K G I	学校運営協議会 による連携・協働 活動への参加延 べ人数	120 人 (1 協議会)	1,400 人 (17 協議会)	1,700 人 (17 協議会)	2,000 人 (17 協議会)	2,100 人 (17 協議会)	2,200 人 (17 協議会)
			1,159 人 (17 協議会)	2,301 人	2,685 人	-	-
K P I	学校運営協議会 活動のうち連携 活動数（※1）	(2 回)	(34 回)	40 回	40 回	40 回	40 回
			22 回	61 回	70 回	-	-
	保護者の学校運 営協議会の認知 率	—	80%	51%	54%	57%	60%
			42%	45%	49%	-	-

指標	R2 年度実績	R 4 年 度 目 標	R 5 年 度 目 標	R 6 年 度 目 標	R 7 年 度 目 標	R 8 年 度 目 標
		実 績	実 績	実 績	実 績	実 績
K P I 地域学校協働活動推進員の配置校数（※2）	0 人	地域の実情等の把握・情報収集のうえで、適切な委嘱数等を検討する	3 人	2 校	3 校	3 校
		市内に3校のモデル校を置く方針を決定した	2 人 (2 校)	2 人 (2 校)	-	-

※1：R5 年度から指標を変更。

R4 年度の指標は“学校運営協議会活動（連携活動数含む）数”。なお、R4 年度実績は変更後の指標の数値を記載。

※2：R6 年度から指標を変更。

R5 年度までの指標は“地域学校協働活動推進員の委嘱数”。R5 年度実績には変更前後の指標の数値を併記。

《重点取組 9-2：学校運営協議会の推進》

担当課：教育総務課

※再掲（P15 重点取組 7-1 参照）

【施策１０】地域社会との協力による青少年健全育成

施策を構成する取組群

- ◆地域の教育力向上のための次世代リーダー育成
- ◎青少年の健全育成
- ◆青少年の学校外活動の推進
- ◆地域人材を活用した交流の場の提供・支援
- ◎児童クラブ運営の充実
- ◎学校運営協議会の推進（再掲）
- ◆地域学校協働活動の推進（再掲）

取組名の前の「◎」は、重点的な取組として目標指標を設定する取組です。

《重点取組１０－１：青少年の健全育成》

担当課：生涯学習課

【今年度の取組】

- ・行橋市青少年育成市民会議を核とした関係団体との連携により、環境浄化推進運動や補導活動を推進します。
- ・県と京築地域２市５町で、子どもたちが地域に愛着と誇りを持ち、将来を担う次世代のリーダーとしての資質や社会性を身につける人材育成プログラム事業（京築みらい塾）に取り組めます。
- ・京築未来のリーダー育成プログラムについては、福岡県及び京築地区の市町で協議をし、対象の中学生が参加したくなるような魅力あるプログラムにし、参加者の満足度に繋がります。
- ・市民大学で、青少年を対象にした講座を開催し、健全育成に繋がります。

【目標指標】

指標		R2年度実績	R4年度 目 標	R5年度 目 標	R6年度 目 標	R7年度 目 標	R8年度 目 標
			実 績	実 績	実 績	実 績	実 績
K G I	行橋市内刑法犯 少年の検挙補導 数基準年（R2 年）比率 （※１）	23人	15人	13人	13人	90%	90%
			96% (22人)	104% (24人)	165% (38人)	-	-
K P I	京築未来のリー ダー育成プログ ラム参加率（※ 2）	-	-	100%	100%	100%	100%
			-	33%	27%	-	-
	乗車マナー向上キ ャンペーンによる 呼びかけ活動実施 回数（※3）	- (コロナ 禍により 中止)	12回	12回	12回	12回	12回
			6回	-	-	-	-

指標	R2年度実績	R4年度 目 標	R5年度 目 標	R6年度 目 標	R7年度 目 標	R8年度 目 標
		実 績	実 績	実 績	実 績	実 績
K P I	環境浄化推進運動・街頭補導活動実施回数	25回	30回	30回	33回	33回
		32回	36回	24回	-	-
	夜間補導活動実施回数	14回	17回	19回	20回	21回
		24回	28回	24回	-	-
	「青少年の非行・被害防止全国強調月間」等啓発人数(※4)	- (コロナ禍により中止)	200人	200人	200人	200人
		-	18人	中止	125人	-

※1：R7年4月第2期計画改訂時にKGIを見直し。KGIは各種KPIの推進により、補導数の減少を目指します。

※2：R5年度からKPIに追加。

※3：R5年度以降はKPIから削除。

※4：R7年度から指標を修正。

《重点取組10-2：児童クラブ運営の充実》

担当課：学校管理課

【今年度の取組】

- ・児童クラブ運営については、業務の委託先である社会福祉法人や民間事業者と密に連絡、連携を図り、利用児童や保護者にとって満足度の高い保育の実施に取り組めます。
- ・計画的に施設の改修工事を行い、環境の整備に努めます。
- ・夏休みの利用に備えた利用申込みが見受けられることから、待機児童解消のための取組として、引き続き夏休みに児童クラブの追加開所を行っていきます。

【目標指標】

指標	R2年度実績	R4年度 目 標	R5年度 目 標	R6年度 目 標	R7年度 目 標	R8年度 目 標
		実 績	実 績	実 績	実 績	実 績
K G I	保護者アンケートにおける「児童クラブの運営に満足している」保護者の割合	92%	93%	94%	95%	95%
		90%	88%	87%	-	-
	アンケート項目「行事・イベント」	66%	70%	72%	74%	76%

K P I	指標	R2年度実績	R4年度 目 標	R5年度 目 標	R6年度 目 標	R7年度 目 標	R8年度 目 標
			実 績	実 績	実 績	実 績	実 績
			80%	82%	82%	-	-
	に満足している」 保護者の割合						
	アンケート項目 「支援員に満足 している」保護者 の割合	91%	92%	93%	94%	95%	95%
			86%	87%	85%	-	-
	アンケート項目 「おやつの内容 に満足している」 保護者の割合	78%	82%	84%	86%	88%	90%
			82%	80%	81%	-	-

《重点取組Ⅰ0-3：学校運営協議会の推進》

担当課：教育総務課

※再掲（P15 重点取組7-1参照）

《重点取組Ⅰ0-4：地域学校協働活動の推進》

担当課：生涯学習課

※再掲（P19, 20 重点取組9-1参照）

Ⅲ. 歴史と伝統文化を継承し、文化芸術活動を充実します

4. 文化芸術活動の充実

【施策ⅠⅠ】地域の誇るべき歴史・伝統文化の継承と普及

施策を構成する取組群

◎伝統文化の継承及び普及・振興
◆伝統文化の地域づくりへの活用推進

取組名の前の「◎」は、重点的な取組として目標指標を設定する取組です。

《重点取組ⅠⅠ-Ⅰ：伝統文化の継承及び普及・振興》

担当課：文化課

【今年度の取組】

- ・市民講座、連歌講座、連歌大会の内容を再検討し、企画委員も含めて協議を進めます。
- ・生徒における連歌講座、連歌大会の周知度が低い傾向にあるので、接点を増やすため、学校の先生に知ってもらえるよう、連歌講座の対象を教員にも広げるとともに、初心者に寄り添った講座となるよう取り組みます。
- ・神楽や地域の伝統行事の保存継承のため、各種支援や情報発信の充実を図ります。

【目標指標】

指標		R2年度実績	R4年度 目 標	R5年度 目 標	R6年度 目 標	R7年度 目 標	R8年度 目 標
			実 績	実 績	実 績	実 績	実 績
K G I	文化事業参加者 における連歌認 知度	-	50%	55%	60%	65%	70%
			69%	57%	19%	-	-
K P I	連歌大会連歌講 座参加者数	-	110人	130人	145人	160人	175人
			122人	91人	142人	-	-
	市民講座の開催 回数	4回	4回	6回	4回	4回	4回
			4回	4回	4回	-	-

【施策12】市民の生きがいを生み出す文化芸術活動の推進

施策を構成する取組群

◎文化振興事業の充実

◆文化団体の育成支援

◆行橋市複合文化施設コスメイト行橋の管理運営・利用促進

取組名の前の「◎」は、重点的な取組として目標指標を設定する取組です。

《重点取組Ⅰ 2-Ⅰ：文化振興事業の充実》

担当課：文化課

【今年度の取組】

- ・市民文化祭が引き続き魅力ある文化発表の場となるよう、内容を見直し、市民の文化活動への参画を促進します。
- ・関係機関や文化団体との連携強化を図り、本市文化政策を総合的に推進します。
- ・「コスメイト行橋」の改修工事の検討も進めながら、文化活動の拠点として利活用の推進を図ります。
- ・市美展の広報手段等を見直し、出品数の増加に努めます。

【目標指標】

指標		R2 年度実績	R 4 年 度	R 5 年 度	R 6 年 度	R 7 年 度	R 8 年 度
			目 標	目 標	目 標	目 標	目 標
			実 績	実 績	実 績	実 績	実 績
K G I	文化芸術事業参加者における文化芸術事業に関する満足度	－	75%	80%	85%	90%	95%
			92%	72%	88%	－	－
K P I	市民文化祭参加者数及び来場者数（※）	517 人	13,600 人	13,670 人	13,700 人	10,750 人	11,000 人
			9,486 人	10,134 人	11,036 人	－	－
	市美展・代表作家展出品点数	－	230 点	240 点	250 点	260 点	260 点
			238 点	246 点	256 点	－	－

※R7 年度から目標値を見直し。

【施策Ⅰ3】歴史や文化財を活かした地域づくりの推進

施策を構成する取組群

◎文化財拠点施設の活用推進

◆文化財の調査と保護の推進

◆文化財の普及活動の推進

取組名の前の「◎」は、重点的な取組として目標指標を設定する取組です。

《重点取組Ⅰ3-Ⅰ：文化財拠点施設の活用推進》

担当課：文化課

【今年度の取組】

- ・本市の文化財施設である「歴史資料館」「旧百三十銀行行橋支店」「守田蓑洲旧居」の来館者の利便性向上を図るとともに、積極的な情報発信に努めることで市民の歴史や文化に対する関心を高め、地域への愛着心を醸成します。
- ・「歴史資料館」では、魅力的な展示や講座、イベントを開催するとともに、HP や SNS 等での広報を行い、独自の魅力づくりに取り組みます。また、文化財を将来世代に伝える役割を果たすため、展示室や収蔵庫等の改修・リニューアルを推進します。
- ・「旧百三十銀行行橋支店」では、運営を行っている指定管理者や「リブリオ行橋」、地元商店街と連携し、来館やまちなか活性化に繋がるよう取り組みます。
- ・「守田蓑洲旧居」では、運営に尽力いただいている「杳尾学校」等の関係団体との協議を重ねるとともに、情報発信を行い、魅力ある施設づくりに取り組みます。将来的には杳尾地区の歴史的景観の保全と一体化して取り組むことを視野に入れ、施設の維持・利便性向上のための改修工事等を行います。

【目標指標】

指標	R2年度実績	R4年度 目 標	R5年度 目 標	R6年度 目 標	R7年度 目 標	R8年度 目 標
		実 績	実 績	実 績	実 績	実 績
K G I 文化財拠点施設 に対する認知度 (※)	-	70%	73%	75%	55%	60%
		90%	46%	42%	-	-
K P I 文化財拠点施設 の入館者数	13,745 人	15,000 人	16,500 人	18,000 人	19,000 人	20,000 人
		17,964 人	21,446 人	21,495 人	-	-
I 歴史資料館体験 学習スペースの 催事件数	-	100 件	105 件	110 件	115 件	120 件
		118 件	87 件	87 件	-	-

指標	R2年度実績	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度
旧百三十銀行行 橋支店の催事件 数	10件	20件	24件	28件	32件	36件
		30件	30件	47件	-	-
守田蓑洲旧居の 催事件数	11件	15件	17件	20件	22件	25件
		36件	35件	32件	-	-

※R7年4月第2期計画改定時に目標値を見直し。

【施策Ⅰ４】市民が文化芸術に接する機会の拡充

施策を構成する取組群

◎文化芸術地域活性化事業の充実 ◆美術館の管理運営・利用促進
◆児童生徒へ文化芸術を体験・鑑賞する機会の提供

取組名の前の「◎」は、重点的な取組として目標指標を設定する取組です。

《重点取組Ⅰ４-Ⅰ：文化芸術地域活性化事業の充実》

担当課：文化課

【今年度の取組】

- ・美術館を活用し、様々な展覧会、イベントを企画し、子どもから大人まで、幅広く市民がアートに触れる機会を増やしていきます。
- ・美術館のワークショップ（※１）などを通して、小中学生の文化芸術に対する理解を深め、創作の楽しみを実感する場を提供していきます。
- ・公立美術館としてのハード・ソフト両面での整備を進めます。特にソフト面に関して、美術館協議会、収集委員会等の諮問機関の立ち上げに取り組みます。

【目標指標】

指標	R2年度実績	R4年度 目 標	R5年度 目 標	R6年度 目 標	R7年度 目 標	R8年度 目 標
		実 績	実 績	実 績	実 績	実 績
K G I 美術館来館者数	1,572 人	3,000 人	3,300 人	3,600 人	3,800 人	4,000 人
		4,068 人	2,350 人	3,024 人	-	-
K P I 利用者アンケートの展覧会満足度の「とても満足・満足」の割合 小中学生を対象としたワークショップ（※１）参加者数（※２） 特別展開催時に美術館において	92%	98%	98%	98%	98%	98%
		92%	96%	84%	-	-
	10 人	55 人	70 人	80 人	90 人	100 人
		103 人	44 人	23 人	-	-
	-	-	-	6 校	6 校	6 校

	中学２年生を対象とした鑑賞教育を実施する参加校数（※３）		-	６校	６校	-	-
--	------------------------------	--	---	----	----	---	---

※１：作品制作および鑑賞を行う教育普及イベント

※２：R7年度以降はＫＰＩから削除。

※３：R7年度からＫＰＩに追加。

Ⅳ. スポーツの力で市民生活をより豊かに、元気にする活動を充実します

6. スポーツ活動の充実

【施策Ⅰ5】多様なスポーツに触れる機会の確保

施策を構成する取組群

◎市民参加型スポーツの推進・普及 ◆スポーツ大会などの情報発信
◆ニュースポーツなど軽スポーツの普及促進

取組名の前の「◎」は、重点的な取組として目標指標を設定する取組です。

《重点取組Ⅰ5-Ⅰ：市民参加型スポーツの推進・普及》

担当課：スポーツ振興課

【今年度の取組】

- ・初心者が気軽に参加できる各種スポーツ教室の開催やニュースポーツの競技を種目に含んだスポーツフェスタの開催を行います。
- ・スポーツフェスタの開催月を「スポーツ推進月間」と位置づけ、老若男女を問わず体を動かす1か月として市民へ呼びかけを行います。
- ・スポーツ活動で優秀な成績を収めた市民のためのスポーツ奨励制度を実施します。

【目標指標】

指標		R2 年度実績	R 4 年 度	R 5 年 度	R 6 年 度	R 7 年 度	R 8 年 度
			目 標	目 標	目 標	目 標	目 標
			実 績	実 績	実 績	実 績	実 績
K G I	スポーツ推進月間に 各種スポーツ大会に 参加した人数	822 人	1,600 人	1,700 人	1,800 人	1,900 人	2,000 人
			1,401 人	1,882 人	1,885 人	-	-
K P I	市報、ホームページ、 SNS 等を活用した「ス ポーツの日」の広報 回数	0 回	2 回	2 回	2 回	2 回	2 回
			2 回	2 回	2 回	-	-
	ニュースポーツの紹 介を兼ねた競技会 （講習会の開催）	1 回	1 回	1 回	1 回	1 回	1 回
			3 回	1 回	1 回	-	-

【施策Ⅰ６】生涯スポーツ推進のための環境・体制の充実

施策を構成する取組群

◎総合公園内体育施設の管理運営・利用促進

◆市民参加型スポーツの推進・普及（再掲）

◆スポーツ指導者の資質向上・養成

取組名の前の「◎」は、重点的な取組として目標指標を設定する取組です。

《重点取組Ⅰ６－Ⅰ：総合公園内等体育施設の管理運営・利用促進》 担当課：スポーツ振興課
【今年度の取組】

- ・指定管理者と連携をとりながら、利用者の満足度向上に繋がる自主事業の検討や、適切な施設の維持管理に努めます。
- ・指定管理者と連携しながら、初心者向けのスポーツ体験会などのイベントを通じて、スポーツ振興、施設の利用者増加を図ります。

【目標指標】

指標		R2年度実績	R4年度 目 標	R5年度 目 標	R6年度 目 標	R7年度 目 標	R8年度 目 標
			実 績	実 績	実 績	実 績	実 績
K G I	利用者アンケートにおける施設の総合満足度が「満足・概ね満足」の割合（※１）	77%	81%	82%	83%	98%	98%
			97%	98%	97%	-	-
K P I	利用者アンケートにおける「週１回以上施設を利用」の割合（※２）	-	(81%)	43%	46%	48%	50%
			(89%)	35%	52%	-	-
	体育館等スポーツ施設の利用人数	91,220人	180,000人	158,800人	160,800人	165,600人	170,500人
			141,002人	188,401人	214,026人	-	-

※１：R7年４月第２期計画改定時に目標値を見直し。

※２：R5年度から指標を変更。

R4年度時点の指標は“利用者アンケートにおける「今後も施設を利用したい」の割合”。

【施策１７】地域に密着したスポーツイベント開催による地域活性化

施策を構成する取組群

◎地域に密着したスポーツイベントの開催

取組名の前の「◎」は、重点的な取組として目標指標を設定する取組です。

《重点取組１７－１：地域に密着したスポーツイベントの開催》 担当課：スポーツ振興課

【今年度の取組】

- ・「ゆくはしシーサイドハーフマラソン」の参加者満足度を高めるとともに、市の魅力発信と協賛企業にメリットのある広報を行うことにより、大会の安定開催と地域活性化を図ります。
- ・子どもから高齢者まで様々なライフステージに応じたスポーツイベントを企画するなどして、スポーツの振興を図り、地域活性化へ繋げていきます。

【目標指標】

指標		R2年度実績	R4年度 目標	R5年度 目標	R6年度 目標	R7年度 目標	R8年度 目標
			実績	実績	実績	実績	実績
K G I	大会に参加することで、行橋市の魅力を感じた人の割合（ボランティア・審判含む）	中止	86%	87%	88%	89%	90%
			85%	79%	80%	-	-
K P I	次回大会も参加したい人の割合（ボランティア・審判含む）	中止	86%	87%	88%	89%	90%
			91%	95%	92%	-	-
	大会運営について満足した人の割合（ボランティア・審判含む）	中止	86%	87%	88%	89%	90%
			80%	78%	77%	-	-